

晩生種の収穫に備えて

～りんご山選果基準会～

晩生種りんごの収穫・出荷に向けた山選果基準会が、10月22日にりんごセンターなどで開かれ、各地区の生産者が参加しました。

黒石基幹支店管内にある山形りんごセンターで行った山選果基準会には、生産者約50人が参加。黒石青果センターの佐藤淳一統括が選果について説明し、「選果を行う際は、病虫害果には十分注意する。また、りんごに土が付着すると疫病菌で腐食する恐れがあるので、雨天に収穫作業を行う時は気を付けてほしい」と呼び掛けました。また、黒石基幹グリーンセンターの藤田俊也営農指導主任が生育状況と栽培管理について「今年産の生育は、干ばつの影響などで平年に比べ小玉傾向。カイガラムシ類の被害が散見されているので、被害が多かった園地は来年以降の発生を抑えるため、農薬防除の徹底に努めてほしい」と指導しました。



選果基準を確認する生産者

JAL職員繁忙期に農作業

～日本航空株式会社援農活動～

10月中旬から下旬、日本航空株式会社（JAL）の社員が、JA管内のりんご園地を訪れ、農作業の手伝いを行いました。この活動は令和2年から実施しており、コロナ禍の影響で農作業に支障が出ていることを知った同社の社員が、「農作業応援活動」を提案し実現しました。

10月17日、平賀地区の園地を訪れた社員3人は、生産者から作業のポイントや注意点を教わり、りんごの摘葉作業を慎重に行いました。

主席機長の西田哲郎さんは「実際に作業を行い、りんご一つ一つが大切に育てられていることを改めて感じる。青森県産りんごの魅力を広めるため、経験したことを周りの人に伝えたい」と話しました。

生産者は「人手が欲しい時期に来てくれるのはとても助かる。今後も継続してくれれば嬉しい」と話しました。



摘葉作業を行う航空会社の社員